

もひとり神事

体験記

社会教育課 文化財調査班

「もひ」とは水を入れる容器のこと。それが転じて水を表す古語であり、「もひとり」とは「お水取り」ということ

⑩ヒトツバヨモギが一抱えほど刈り取られた。大山の靈威ある薬草であり、特別に効くと考えられていたようです。



⑪9合目付近。何度も突風に吹き飛ばされそうになりながら、帰路についた。まさに、命がけの神事となった。



⑫7合目付近。いきなり視界が開け、半時間前が嘘のような穏やかな朝になった。



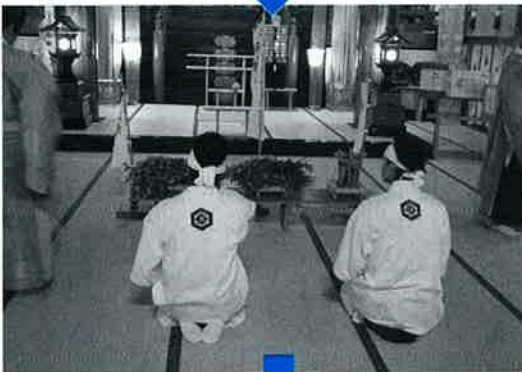
⑦烈風の中、ようやく石室に到着し、中にある祠ほくらを飾りつけ、お供えをする。いよいよ頂上祭が始まる。



⑧午前5時頃、薄暗く寒々とした石室の中、正使が祝詞を厳肅にあげる。このように祭事は肅然と進められる。祝詞の後は、強力達や一般参加者の男女の代表者がおのおの玉串を捧げる。



⑬午前8時頃、頂上直下で取ってきた水と薬草を奉納し、最後の祭事が行われる。



⑭参拝者は、ヨモギを貰って帰る。主に、お風呂に入れたりするようである。今年も無事に、もひとり神事も終了する。



中央上へ

もひとり神事

7月14日夜から15日朝にかけて行われる伝統の古式祭で、未明に大山山頂に登り、霊水と薬草を持ち帰る珍しい神事で、毎年この2日間に行われる。神職や信者らが未明に出発して8〜9合目にある池の水をくみ、薬草のヨモギを採集して下山。神前に供えた後、無病息災などのために参拝者にヨモギを配る。